

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (平成28年度第2回)

日 時：平成28年8月29日（月）午後3時～4時30分
場 所：鳥取県庁 第32会議室（第二庁舎4階）

1 開 会

○司会（障がい福祉課、岡村）

それでは定刻になりましたので、ただ今から、「手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議」の平成28年度第2回目の会議を開催します。本日はお忙しいところ、また大変な悪天候の中、本会議に御出席くださりありがとうございます。私は、本日の進行を務めます、鳥取県障がい福祉課の岡村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

2 委員長あいさつ

○司会（障がい福祉課 岡村）

それではまず開会にあたりまして、本会議の委員長であります鳥取県福祉保健部長の藪田から、皆様にご挨拶を申し上げます。

○藪田委員長（福祉保健部長）

皆さん、こんにちは。今日はありがとうございます。台風の影響でどうなることかなあと考えたんですが、残念ながら廣田委員様はJRが停ってしまっておいでいただけませんでした。大杉委員様は、飛行機が飛ぶかどきどきしておりましたが、無事にお越しただいてほっとしているところでございます。今日はよろしく願いいたします。

2回目の会議でございますが、本番に向けては、もう今日が最後の詰めの会議でございます。この後、報告させていただきますが、予選診査の結果を報告させていただきますけれども、今回は鳥取県勢も頑張ってくださいまして、史上最多といえますか、3回目にして一番多くの4校が参加決定いたしました。そして、驚くべきは、私もその抽選会場におりましたけれども、選手宣誓をする高校を決めるくじに、私も心の中で祈っていたんですけれども、なんと鳥取の米子高校が当選いたしました。奇跡だなあと興奮しております。今回最後のシナリオも詰める段階になりますけれども、興奮ばかりはしておられませんので、3回目ということで、一番今まででいい大会にするためには、シナリオをまず詰めていかないとイケませんので、前回でいろいろご意見いただいたものの中に盛り込んでいます。今後、大変わりになることはないと思いますが、最後の詰めのところで皆様のご意見を伺いたいと思いますので、限られた時間ではありますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（障がい福祉課 岡村）

ありがとうございました。

3 出席者紹介

○司会（障がい福祉課、岡村）

次に、委員の皆様のお紹介ですが、本来でしたら、本日御出席いただいております皆様全員をお紹介させていただくところですが、時間の都合もありますので、大変恐縮ではありますが、お手元の出席者名簿をもって、御紹介に代えさせていただきたいと思っております。

なお、さきほど部長の藪田が申しあげましたように、全日本ろうあ連盟の廣田委員様が本日はご欠席ですのでご承知くださいますようお願いいたします。

また、大会運営のパートナーであるM&M. c o（エムアンドエムドットコー）さんに、今回も会議にオブザーバーとしてご参加いただいております。よろしくお願いたします。

4 議 事

○司会（障がい福祉課、岡村）

これから議事に進みたいと思っておりますが、その前に発言される際のお願いをさせていただきます。御発言いただく際には、まず手を挙げていただき、お名前を述べていただいた後、ゆっくりお話くださいますようお願いいたします。

それでは、これより、議事に入らせていただきます。これから先は、実行委員会設置運営要綱に基づきまして、藪田委員長に議長をお願いいたします。それでは、藪田委員長、議事の進行をお願いいたします。

（1）報 告

○藪田（委員長）

それでは、これより議事に入らせていただきます。議事進行につきまして、どうぞご協力いただきますようよろしくお願いいたします。まずは、報告事項についてご説明させていただきます。お手元の「資料1」をご覧ください。「予選審査結果」につきまして、事務局から説明をお願いします。

○明場（実行委員会事務局長） 説明（資料1）

障がい福祉課の明場と申します。よろしくお願いいたします。資料1のほうをご覧ください。第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の本大会出場チーム一覧ということでございまして、予選審査結果を掲げております。これにつきましては、8月9日に予選審査会を行いました。全国から61チームの応募がありまして、その中から20校にしぼるという作業を行ったところでございます。庄崎委員長さんをはじめまして、小中さん、門さん、山田さん各審査委員さんの計4名の審査委員で審査を行ったところでございます。出場校については、表に載っているとおりなんですけども、まず、地域ブロック枠ということで、それぞれのブロックの中で最高得点を取ったチームがまず選出されたということで、それが①の地域ブロック枠ということで6チーム。この6チームを除いたところで得点順に高い順から13チームを選んだというのが②の得点順枠ということでございます。そして、③の開催地枠ということですが、これについまし

ては、①の地域ブロック枠と②の得点順枠を除いたところで鳥取県の中で最上位のチームを選出したというところが開催地枠というところがございます。これにつきましては、鳥取県からは米子高校が選ばれたというところがございます。以上20チームというところがございます。鳥取県からは4チームが選出されたというところがございます。

続きまして、大会の演技順ということでございますけれども、これにつきましても8月9日の審査会の後で抽選を行った結果、以下のとおりに選ばれたというところがございます。さきほど部長のほうからも話がありましたけれども、米子高校が選手宣誓ということになっております。説明としては以上でございます。資料1の2と、資料1の3、それから資料1の参考ということで、そのときの詳細なものを付けておりますけれども、これにつきましては各委員さんの手持ち資料ということで、とくに公開しておりませんので取り扱いに注意いただければというふうに思っております。以上でございます。

○藪田（委員長）

ただいまの説明につきまして、ご質問とかご意見とかございますでしょうか。

○田中（委員）

一つ質問なんですけれども、資料1の2を見ますと、得点順にすると石狩翔陽高等学校αチームが高得点を取っているんですけども、これは同じ学校から2チームは出さないということで本大会選出チームから外してあるんでしょうか。

○明場（事務局長）

そのとおりでございまして、1高校から2チームの場合は、1チームの選出ということで得点の高いβチームのほうを選出されたというところがございます。

○藪田（委員長）

ほかにございませんか。よろしいでしょうか。では、次の議題に入りたいと思います。

（2）議 事

〔議案第1号〕「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園実施計画」

○藪田（委員長）

続きまして、議題に移ります。お手元の「資料2」をご覧ください。議案第1号「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園実施計画」について、事務局から説明をお願いします。

○明場（事務局長） 説明（資料2）

それでは資料2の説明をさせていただきたいと思います。この資料につきましては前回お示しさせていただいたものと同じところも非常に多くて、そういった部分につきましては前回説明しているということもございますので割愛させていただきながら、主に変わったところを中心に説明させていただきたいと思います。

まず、2頁の3のところですね。「出場チーム」ということでございますけれども、これにつきましてはさきほど説明しましたとおり、8月の9日に予選審査ということで行いまして、20チームを選出させていただいたところがございます。続きまして、3

頁7のところに、主催者等ということがございます。これはとくに新しい要素ではないんですけども、続きまして、4頁5頁のところをご覧いただきたいんですが、4頁、交流会のところを詳細に書いたというところがございます。交流会につきましては、前日の9月24日の6時から8時まで鳥取短期大学のシグナスホールで実施するというところで、出席者は250名を想定しております。日程については、そこに書いてあるとおりでございます。主催者挨拶に始まりまして、歓談等しながら、出場チームの豊富とか、ゲストパフォーマンスということ組んでおります。あと、出場チームへのエールということで、こちらのほうも組んでおります。交流会については以上のようなかたちでございます。

続きまして5頁ですね。本大会のほうです。こちらのほうもちょっと詳しくしたというところがございます。9月25日9時半から16時30分まででございます。開会式の中で主催者挨拶、来賓挨拶等がございます。その後でチーム演技が始まりまして、午前中に前半10チーム、昼休憩をはさみまして昼から後半10チームということになっております。休憩をはさみましてゲストパフォーマンスとか、クイズラリーの抽選会とかをしまして、表彰式が3時55分からというような段取りになっております。

資料をめくっていただきまして、送付した資料にはなかったんですけども、この大会の観覧のところ辺りにつきましては、前回提示したものと同じでございます。続きまして7頁をご覧ください。今まで演技司会2名のうち1名が決まっていなかったんですけども、早瀬憲太郎さんともう一人、松本若菜さんということで決定いたしましたので、報告させていただきます。それから、総合司会のところですね、こちらのほうも決まりました。前回、前々回と同じですけども、NHK鳥取放送局の大木浩司アナウンサーにお願いすることになりました。あとはだいたい資料的には前回示させていただいたものと同じで、10頁のところですが、これにつきましても事前に送付した資料からちょっと漏れていましたけれども、内容的には前回提示したものと変らないということで運営体制ということでございます。

そして11頁のところの13番「本大会審査実施要領」ということで付けております。これにつきましては、初めて付けているんですけども、内容としましては、前回と同様の審査要領を今年度のバージョンということでご承認いただければというものでございます。内容的には昨年度のものとは大差はないんですけども、新たな要素としましては、4の(4)のところですね。舞台上に演技時間の経過を示すライトを設置するというところで、カラー表示は以下のようにする、ということで、演技する人に残り時間が分かるようなかたちで、ライトを色でもって示して時間の経過をお知らせするという運びとなっております。

続きまして、めくっていただきまして12頁ですけども、それぞれの審査の観点ですね。各審査項目の観点ということで、手話の正確性・分かりやすさということと、演技出力・パフォーマンス度というところの一つの項目について、各審査員さん、ろう者の方が3名、聞こえる人が3名、計6名ということで、それぞれ点を付けていただくというかたちになっております。

そして、6番目ですけども、優勝、準優勝及び3位のチームは、得点の順によって決定をするということで、審査得点が同点の場合は審査員で協議の上、審査委員長が決定するという運びになっております。

続きまして13頁からですね。今回決めました20チームを、午前中に発表する10チームと、午後に発表する10チームということで、発表順に並べております。チーム

紹介も書いておりますので、参考にしていただければと思います。

15頁につきましては、そもそも8月9日に行われました予選審査のときに、実際に申し込みのあったチームの一覧を付けております。61チーム、65校から参加申し込みがあったというところでございます。この中から20チームを選出しました。実施計画については以上でございます。

引き続きまして、企画運営委託業者による実施計画書ということで説明をさせていただきます。これは17頁以降ということでございます。まず18頁をご覧いただきたいと思います。9月24日、リハーサルということで予定をしております。詳細につきましては表のとおりということでございます。各チーム10分、受け付け、移動して打ち合わせでリハーサルとしては15分設けています。その後解散というかたちで順次行っていくという運びとなっております。続きまして19頁をご覧いただきたいんですけども、これにつきましては前回も示させていただいているところなんですけども、若干ちょっと変わっているところもございます。委員さんのほうから、前回意見がありました、これまでの大会の映像とか、大会を紹介するようなパネル展を設けたら、というご意見がございましたので、2階の赤いラインが引いてあるWCの前に手話パフォーマンスコーナーを設けるということにしました。それから1階部分につきましてはサテライト会場ということで作っております。ここのレイアウトを次のページで説明しますが、公式グッズ販売だとかの販売場所をちょっと若干入れ替えたというところがございます。それとあと楽屋ですけども、前回示したところと若干個人名を入れたりして充実させたかたちで整理しております。

20頁をご覧ください。上の図なんですけども、さきほど言いましたとおり、前回の委員さんからの意見の中で、サテライト会場と物販の仕切りの辺りが見にくい、邪魔になりはしないかというようなこともございましたことから、公式グッズ販売コーナー、それから聴覚障がい者協会コーナー、協賛コーナーというところを、右下の斜めの部分に持ってきたということです。前はスクリーンの下の辺りに設置していたんですが、これをこちらのほうに移動したということでございます。それとあと下のほうは、警報発令ということで、警報の出たときの対応としては下の図のとおりということで、何が違うかと言いますと、下のところにマルシェということで書いてあるんですけども、本来マルシェは屋外でやる予定になっているんですけども、それが中のほうに入ってくるということで、その部分が変わってくるというところがございます。

続きまして21頁をご覧ください。会場図で、これにつきましては前回の委員会の中でも、基本的には同じなんですけども、若干数字の変化はありますけども、基本的には同じ図です。座席数の確保・把握ということで、ご意見いただいたんですけども、演技中の出入りは迷惑になるのではないかというような意見もいただきました。そういった中で下のところに赤字に白抜きで書いていますけれど、演技中の出入りはご遠慮いただく旨をアナウンスして周知していくというふうに考えております。それとあとは、ハートフル席の周知ということで下上のところにも整理しておりますけれども、ハートフル席の定義を案内看板のほうで周知させていただきまして、ホール受付スタッフのほうで声かけをさしていただく。それと合わせてチラシにもハートフル席ということで明記するというようなかたちで考えております。

続きまして22頁をご覧ください。舞台図ということで、これもそんなに大きく変わっているわけではないんですけども、中央スクリーンのところですね。ここのところずっと図が書いてありまして、インタビュー時のところ、この大きさをやりますよという表

示なんですけども、ライブ映像と手話通訳が横16と縦が9ということでやります。要約筆記については横が32の縦が9のサイズでやりますということでございます。パフォーマンスのときは、演出映像ということで、これは各高校のほうで準備されたものなんですけども、字幕も含めて演出映像ということで、横16縦9ということで考えているところでございます。合わせてライブ映像も流すということで考えているというところでございます。それ以外の部分につきましては、基本的には前回と同じというところでございます。

続きまして23頁をご覧ください。情報保障用のカメラの配置図ということでございます。これは前は示してない図でございます。これにつきまして、人物アップ撮影用カメラというのが、前一番舞台の上のほうの深緑で示してあるところ、こちらのほうで配置するというところでございます。それから、舞台全体撮影用カメラということで、これは真ん中辺にあります青字の部分。それから、手話通訳撮影用カメラということで赤で塗ってあるところに配置するということです。資料をめくっていただきまして、立ち位置ということでございます。これも初めてお示しするものがございますけれども、そこに書いてあるとおりですけれども、NHKの大木さんが総合司会ということで舞台の下手の司会台のところで行っていただくというところです。その一つ上手が早瀬さん、更に司会と書いてありますけれども、ここが松本若菜さんになります。この松本若菜さんの上のところに手話1と書いてありますけれども、一人通訳ということで、松本若菜さんのしゃべっていることを早瀬さんに伝えるという役割を担うのが手話1の方ということになります。手話2のところですが、これも一人通訳ということで、ステージで行われているやり取りを来場者の皆さんに伝える役割ということになります。手話3のところですが、これは舞台のほうの最前列に席を確保しましてやっていただくわけなんですけども、まず聞き取り通訳ということでステージ上のできごとを選手と早瀬さんに伝えるということと、読み取り通訳ということでございまして、手話を日本語に訳して選手なり早瀬さんのやり取りをステージ・来場者の皆さんにお伝えするというかたちになります。立ち位置についてはこういうかたちで考えているところでございます。

続きまして25頁をご覧ください。雨天時・緊急時の対応ということでございます。これについて上のほうは基本的には同じようなことでございます。下のほうの緊急時対応ということでございまして、前回の委員さんの意見の中にも緊急時の対応についてもちょっと詰めるべきというお話もございまして、そこら辺のことをちょっとより詳しく書いたというところでございます。地震・火災などが発生したときに本部から各統括係へ指示をしまして、そこから各班へアナウンスをするということで、それを受けてスタッフのほうは来場者をまずは落ち着かせる。そして転倒・落下の危険から遠ざけるということを行います。たとえば大ホール内でしたらモニターに情報を掲載するとか、サテライト・マルシェ・2階ホワイエ、あるいは総合案内周辺では情報ボードに情報を掲載して周知するというところでございます。各班で来場者を避難誘導していくというかたちになります。これにつきましては、また危機管理マニュアルというのを作成しましてスタッフのほうに徹底していくというふうを考えております。

続きまして26頁でございます。これにつきましては前回お示しした資料と特に変わることはありません。続きまして27頁でございます。駐車場計画というところでございます。前回全体で883台ということだったんですけども、今回1333台ということで増えております。一つの要因としまして、実はこの日は倉吉大市ということでフ

リーマーケットが毎月の最後の週に行われるということでございまして、その車がかなり入ってくるだろうという情報を入手したこともございまして、新たに駐車場を確保しております。臨時の2というところ、これは上灘公民館ということで、臨時の1というところからは少し離れているんですけれども、こちらに50台、それから臨時の3は上灘小学校ということで、駐車場を更に確保したというところでございます。有線順位につきましては、下に書いてありますとおり、第一駐車場、第二駐車場、第三駐車場、そのあとで臨時の1・2・3、それから第四、臨時の4というかたちでの優先順位となっております。駐車場については以上でございます。

続きまして28頁をご覧ください。シャトルバスの計画というところでございます。計画事態特に変ったことはないんですけども、その下のところに新たな情報としまして、「おもてなしブース」というのを倉吉駅に設けるということでございます。改札を出たところの右側のところに来県者の方に案内する場所として設けるということでございます。続きまして29頁につきましては、前回提示した資料と同じでございます。

以上が資料2の説明でございまして、引き続きまして参考(資料2)として付けております。前回の会議の中でいただきました意見についての対応ということで、まだ十分詰まってないところもあるんですけども、その動きも含めて整理しております。まず最初に大会PRコーナーの設置ということについて廣田委員さんのほうからご意見をいただきましたが、これにつきましてはさきほど説明しましたとおり、2階会場の入り口に聴害コーナーを設置するというにしました。続きまして高校生ボランティアの活用ということで杉本委員さんのほうからいただきました高校生ボランティアですけれども、これにつきましても大会運営に関わってもらおうということにしております。この辺につきましては杉本委員さんにご協力をお願いしまして今後詳細を詰めていきたいというふうに考えております。内容としましてはチームアテンドとかで協力をいただくのかなあというところで考えております。続きまして、ハートフル席の周知ということで、国広委員さんのほうからいただいたものですが、ハートフルという言葉自体、県内でハートフル駐車場とか割と県内で注視されている言葉ということもございまして、これの周知につきましては、さきほども言いましたけれども、チラシに掲載するとか、看板を設置するとか、そういったかたちで周知して行って、スタッフも積極的にハートフル席を利用していただけるように案内を行う予定としております。

それから、サテライト会場と物販コーナーの仕切りということで、国広委員さんからいただいております。これにつきましては先程説明したとおりでございます。引き続き来場者の同静については留意していきたいと考えております。それから、大ホール内での中昼ということでございます。寺谷委員さんからいただいたものですが、施設側と交渉した結果、出場する高校生の飲食については、3階席ですけども可能ということでございました。ただ一般来場者の1・2階の食事は不可ということでございますので、昼食前には屋外のほうでマルシェがやりますので、飲食物の販売を行っている等のアナウンスを行って誘導していきたいというふうに考えております。なお、皆様を初めとした関係者の皆様には弁当を提供させていただけるよう考えております。続きまして、音声ガイドということを廣田委員さんからいただいております。音声ガイドにつきましては基本的には視覚障がい者向けに案内をする装置ということで考えているところでございます。FM電波を使用するというところで聴覚障がい者の方が利用しておられる音声増幅装置用に電波の流用はできないかということをちょっと調べたんですけども、できないということでございます。音声ガイドの音量を上げるということで一部の方の聴覚障

がい者の方にも利用できないかということをやっと検討しているところでございます。それから盲ろう者への対応ということで、これも廣田委員さんからいただいた意見ですけども、盲ろう者への対応としましては来場されたときに対応できるように席の前のほうにスペースを設けた席を用意するというところでございます。具体的には介助者の方と確認を取りながら行おうというふうに考えております。また、盲ろう者のご来場につきましては鳥取県盲ろう者支援センターに事前の情報提供をお願いしているところでございます。

続きまして、来場者向けの案内ということでございます。大杉委員さんのほうからいただいたものですが、会場の総合案内のほうに視覚的に分かりやすい情報提供用の看板を設置するというところでございます。障がい者対応で出来ることと出来ないことをきちっと整理していったらというご意見でしたけれども、随時そこは大杉委員さんと個別に相談しながら計画を進めていきたいというふうに考えております。それから、トラブル等の情報の集約とか、対応指示を行う組織の構築ということなんですけども、これにつきましては運営統括本部を楽屋の中に設置しまして、各班長からの情報を集約して、本部から班長→班員というかたちで周知されるような仕組みをつくっていかうというふうに考えております。危機管理対応も同様に本部のほうから各班に速やかに指示を行うというふうに考えております。

手話スタッフの派遣について国広委員さんのほうからいただいております。手話スタッフのボランティアをお願いするということにしまして、国広委員さんと田中委員さんのほうにご協力の要請を行ったところでございます。今後、詳細については詰めていくというところでございます。それから、託児所の掲示ということで、国広委員さんからいただきました。当然のことです。託児所の掲示もしっかり行っていくというところでございます。それから演技司会の決定ということで戸羽委員さんのほうからいただいたものですが、遅くなったんですけどもさきほど説明させていただきましたとおり、女優の松本若菜さんをお願いさせていただくということになりました。ご心配をおかけしましたが決まりました。その他、駐車場の確保の問題とか、チーム、来賓の送迎計画につきましても、引き続き詳細なところを検討していきたいというふうに考えております。以上でございます。

○藪田（委員長）

はい、前回は少し思い出しながら、少し長かったですけども実施計画を聞いていただきました。ただいまの説明に対しまして、ご質問ご意見ございますでしょうか。

○森原（委員）

託児についてお聞きしたいんですけども、26頁に「託児室、休養質の実施」というふう書いてあります。「当日の運営スタッフにも周知を図る」というふうに記載されているんですけども、事前の周知というのはどのようにされるのでしょうか。と言いますのが、私のところに先日問い合わせがありまして、「託児所はあるのか」ということと、それから「有料なのか、無料なのか、事前申し込みは必要なのか、スタッフは保育士が付いているのか」という問い合わせがあったもので、やはりチラシを見てもその辺りが記載されていないので、どのような周知方法をご健闘されているのか教えていただけないでしょうか。

○明場（委員長）

周知の方法につきましては、具体的にはちょっとまだ検討中というところでございます。おっしゃられました要素、スタッフの問題だとか、有料か無料かとかいう当たりも、きちんと整理したかたちで周知していくようなかたちを考えていきたいと思っております。

○藪田（委員長）

託児に関わらず、まだ詳細を周知しなければいけないことも多々あると思いますので、まとめてやって参りたいと思います。そのほか、ございますでしょうか。

○山内（委員）

シャトルバスに関してお伺いしたいことがありまして、去年米子が会場だったときに、米子駅から公会堂に向かってシャトルバスが出たんですけども、昨年委員だった小椋委員からお聞きしたお話で、朝シャトルバスに乗ろうと思ったら、時間どおりに出なかったと、緊急でばたばたをしたんですけど、そういうときに今回は例えば、倉吉駅に係の方を付けるとか、または運行が日ノ丸自動車さんだと思いますので、日ノ丸自動車さんに管理もお願いするなどを予定されているのでしょうか。予定どおり動けばいいんですけど、去年のようにちょっと予定どおりの時間にバスが出ないときの対応が、ちょっと混乱したみたいです。

○明場（事務局長）

基本的には人を付けるかどうか、非常に大事なご意見で、一応計画は計画としてあるんですけども、それがうまくいかなかったときの対応につきましては、ちょっとM&Mさんのほうから説明をいただけますか。

○本山（オブザーバー）

シャトルバスについてでございます。まずシャトルバスのほうの担当というかたちで、倉吉駅と未来中心の双方に1名ずつスタッフのほうは派遣させていただきます。あと何かあったときの有事のときの対応なんですけど、シャトルバスの係の統括のスタッフというのを1名設けております。それで何かあればさきほどの話じゃないんですけど、すべて本部のほうに情報が上がってきまして、そこは本部のほうで協議をして、下のほうに下ろしていくというような態勢を考えております。

○藪田（委員長）

私は今年からですので、去年の時間どおりに動かなかった原因というのがあったと思うんですけど、たぶんその辺りは本山さんのほうで分析された上の今の態勢ということで、よろしいですね。はい、ではよろしくお願いたします。

○寺谷（委員）

前回駐車場のことだとか、食事のことでいろいろとお願いしたところが、駐車場等も確保いただいて、本当にありがとうございました。前回ちょっと心配したのは、今回マルシェがあるということなんですけども、たとえば倉吉には図書館があったりと施設利

用者用にある程度駐車場を残しておいて差し上げないとまずいなあと思ったものでそれでお伺いしたようなところでして、今回もう少し幅広に、上灘小学校などを確保していただいておりますので、たぶん大丈夫だとは思いますが、満杯にして詰めていいかどうかみたいなのところも、ちょっと詰めておいていただけたらなあなんていうふうに思います。つまり、第1第2第3という順番で詰めていくと、たとえば図書館利用者が来られるけれど、駐車場がいっぱいでクレームが出たりするようなこともあるのではないのかなと心配した点が一つです。それから二つ目は、いま山内委員さんのほうからありましたシャトルバスのことなんですけども、本番は会場に行くときは集中して動くわけですけども、前日はリハーサルに三々五々やってきて、そしてたぶん終わったら宿舎に一回戻って、それから交流会場に行くんじゃないのかなあと、その辺は参考資料2の一番下のところに、これから引き続き検討されるということでしたので、その中でまた詰めていかれると思いますけれども、参加される学校の生徒さんが移動のために長いこと待ってなきゃいけないとか、移動の手段がなくて途方に暮れられるようなことがないようにして差し上げたらいいなあというふうに思ったもので、その辺もまた御検討をよろしくお願いいたします。

○藪田（委員長）

ありがとうございます。一つは駐車場に関して、本来の建物の来館者の方とパフォーマンス用との区別のことでございますね。それともう一つは、参加される生徒さんの動きに合わせた移動手段のことでございますね。そこはいかがなっておりますか。

○明場（事務局長）

図書館利用者の関係ですけども、実際いま現在フリーマーケットのほうの関係者と今、調整をしているところでございまして、その話の中で倉吉未来中心と、それから図書館は倉吉市のほうですので、その辺も交えて話をしていこうかということで、調整しているところでございます。図書館につきましても、その辺の中で調整させていただきたいと考えているところでございます。シャトルバスにつきましても、おっしゃられましたとおり、参加者の方が待つことのないようなかたちで、これから詳細な調整をしていきたいというふうに考えております。

○藪田（委員長）

そのほか、よろしいでしょうか。じゃあ、大杉先生から。

○大杉（委員）

資料の24頁のところに、立ち位置というのがあります。手話3ということと、青の○が三つとオレンジの○が三つ、それぞれ載っていますけれども、特に手話通訳者については、おそらく見える範囲でのお客様から、また舞台から見やすい範囲ということで立ち位置のほうを考えているのではないかと考えておりますけれども、舞台の袖のほう、裏ですよ。舞台には、どのような情報保障があるのか教えていただきたいです。舞台の進行の観点でも、それぞれ手話通訳の役割位置を整理する必要があると思っています。たとえば、今回、特に早瀬さんと松本若菜さん、手話でのコミュニケーションがなかなか難しいと思います。特に、舞台の袖での舞台裏のほうでの打ち合わせというのが非常に重要になってくると思います。またそのときに、司会の大木さんが出て話をされてい

るときに、早瀬さんに対しての情報保障、舞台上で何が話されているかという早瀬さんへの情報保障、早瀬さん付きの手話通訳が必要になってきます。ですから、そういった意味でも舞台裏にいる手話通訳が必要になってくるというわけです。その通訳者は、もちろん舞台上では通訳はしません。舞台裏での情報保障については、資料に書いてないのでご質問しました。また、手話の2番、上手のほうに立っている位置になってます。ちょっと違和感があります。手話2の役割をきちんと整理して、たとえばインタビューに応える高校生の横で通訳をする。高校生が横に並んでいるのであれば、通訳者も話す高校生に合わせて移動するというようなことが必要になってきます。つまり、手話通訳者の役割を整理してほしいということです。あと、大木さん、松本さん主体の手話通訳は手話1ということになりますね。早瀬さんに対するものではなくて、来場者に対するものと兼務してしまいますけど、手話表現というのは違いますので、それは分けていけばいいんじゃないかと思います。その辺りの整理というのは、今後していく必要があると思います。今ちょっと細かくご説明しても、逆に煩雑になるかもしれませんので、舞台袖の人のことも含めてきちんと整理をしていきたいと思っています。

○藪田（委員長）

ありがとうございます。たぶんこれは実際の人動きでありますとか、そういったものをきちっと想定しながらでないとは確定できないと思いますので、また個別に大杉委員にもご相談いたしますが、細かなところはこれから定めたいと思います。これは、こういった人がいるんですねということでのご提示でございますので、少し詳細を詰めて参りたいと思います。では、戸羽委員さん。

○戸羽（委員）

スクリーンのことですが、インタビューのときに、ライブ映像、手話通訳映像が横になって、要約筆記ということで下にあると思うんです。このイラストだけ見ると要約筆記とライブ映像の縦の割合が半分ぐらいになってます。そうすると、手話通訳が小さくなってしまいます。聞こえない方が遠くでご観覧されている方もいらっしゃると思いますので、ちょっと分かりにくいのではないかという心配を持っています。これは以前の資料を見ると要約筆記は縦の3分の1の長さで、ライブ映像等は3分の2の割合だったように思ったのですが、今日の資料はちょっと違っていましたので、会場と打ち合わせをした結果こうなったのかどうか、ちょっと心配がありますので、きちんとそれを見ていただくことが大事になって参りますのでその辺りをちょっと確認させてください。

○藪田（委員長）

ありがとうございました。では、本山さんのほうでいかがですか。

○本山(オブザーバー)

スクリーンについてお答えします。まずインタビューの画面のほうの写真のほうではこういったかたちで、ほぼ正方形なかたちなんですけども、こちらのほうの下になっているのがライブ映像と手話通訳が16対9というかたちになっている件についてでございます。これがなぜこういうかたちになっているのかというと、技術的というか機材的なかたちで今こういったサイズになっているというのが一番の大きな問題です。それで、こちらのほうの写真にしていくことも、もちろん可能なんですけども、どうし

ても経費的な部分がかさんでくるということがまず一点ありまして、今現状としてちょっとこちらのほうのサイズに合わせさせていただいているというところでございます。だいたい手話通訳とライブ映像の大きさなんですけども、百インチ程度の大きさになるというふうに想定しております。

○藪田（委員長）

すみません。百インチは何メートル何メートルになりますか。

○本山（オブザーバー）

資料が手元にないので、何センチ何センチと言えないんですけども、このスクリーンが120インチぐらいですね。

○藪田（委員長）

だから今この手話通訳の画面が、あれより少し小さいイメージということでございますね。

○本山（オブザーバー）

はい、そうです。

○藪田（委員長）

ここの22頁にある手話通訳のスペースが、あれが120インチですから、あれより少し小さい感じで舞台上で映るという感じのようです。本山さん、この写真より小さいということですか。

○本山（オブザーバー）

この写真のイメージと実際のかたちはちょっと違います。

○戸羽（委員）

ちょっとイメージが分かりづらいですね。実際に見てみる必要があると思いますが、ぜひやっていただきたいんですが、その辺りは可能でしょうか。

○明場（事務局長）

経費のこともございますし、ちょっとその辺は委託者と受託者と協議してこれからちょっと検討してみたいと思います。

○戸羽（委員）

実際にやっていただける可能性はあるんでしょうか。やはり実際にテストというか、映し出して見て見ないと分からないと思うんですけど、そのお考えはあるということですね。できないというわけではないんですね。

○明場（事務局長）

はい、また戸羽委員さんともその辺は相談さしていただきながらということに。決し

てやらないというつもりもなく、できる方向でなるべく考えたいとは思っておりますけれども、その辺につきましては、またちょっと戸羽委員さんも含めてご相談させていただけたらというふうに思います。

○藪田（委員長）

戸羽委員さんからご意見いただきました。手話通訳を映す画面が少しでも大きくなるように、少し検討を進めて参りたいと思います。ありがとうございます。そのほか、いかがでございましょうか。

○田中（委員）

スクリーンのほうでもう一つ、質問なんですけれども、予選会インターネット映像を見たときに、四つに分かれてて、右下に要約筆記、上に司会と通訳でしたかねえ。審査員長が話されているときに、左下に映っていたと思うんですけれども、それが通訳は上半身を意識して撮られているようだったので、わりとアップに映っていたんですけれども、審査員長が話されるときには、わりと全身に近いものが映っていたので、すごく小さくて手話がすごく分かりにくかったんです。審査員長でもやはりアップにさせていただかないと、その手話を直接見たい方がたくさんおられるので、その辺の撮り方というか手話をされる方の様子というのはしっかり大きく映るようお願いしたいなあとということと、臨時駐車場についてなんですけれども、私ちょっと倉吉の地理的なものが分からないので、距離的には歩いていくことができるという想定なのでしょうか。

○明場（事務局長）

最初のご意見いただきましたが、手話通訳する際の全身だとなかなか小さくて見えないうことでございますので、その点につきましては撮影の仕方の問題ですので、そこにつきましてはなるべく手話が分かるようなかたちで映すということで、進めていきたいと思っております。それから、駐車場のことにつきましては、倉吉市役所になるとかなり離れてしまうんですけれども、上灘小学校とか公民館というのは歩いて5分ないしは10分以内にはいけるところでございまして、基本的には歩きということで、ただ場所が非常に分かりにくいということもございまして、その辺は来られた方にチラシ的なもので周知するようなかたちを考えております。

○本山（オブザーバー）

市役所の駐車場につきましては、最悪の想定で、初めに出ささせていただいた計画としては880何台と出ささせていただいて、そこが増えて更に1300何台というかたちでかなり増えている状況です。準備が足りないというかたちで考えておりました。市役所の駐車場に関しては基本的に最悪のときに押さえているというかたちで基本的には使う想定はございません。今現在も近くの駐車場を当たっております、徒歩10分圏内以内のところには200台程度の駐車場を今確保できるように交渉中でございます。

○藪田（委員長）

ありがとうございます。では、とりあえず臨時4の駐車場は念のためにというところで押えているということでございますね。なるべく近くのほうで確保、よろしく願いいたします。それから、映し方については23頁のすべてのカメラは有人ですので、それは大きくアップで映すように努めますということでございますね。では国広委員さん。

○国広（委員）

5頁の本大会の日程が書いてありまして、クイズラリーは前回の会でも示されました。このクイズラリーの具体的な案というのはできているのでしょうか。それとも、これからご検討されるのでしょうか。たとえば、クイズの問題、どういう提示の仕方、何人ぐらいの参加を想定しているのかとか、豪華賞品が用意されているとか、クイズラリーのことについて分かる範囲でけっこうですので教えていただきたいと思います。次は10頁です。運営体制がありまして、我々委員はどこに位置付けられるのか、どういう役をするのか聞きたいことが一点。それから下の班のところで手話対応と書いてあるのが、受付と案内班のみです。この表での手話対応というのは何を意味する手話対応なのかということです。手話スタッフを意味しているのか、それとも手話通訳者という大きなくりなのかということなのです。そして他のところには手話対応という文言は入らないのかどうかということをお聞きいたします。次の11頁です。大きな13の実施要領のところの4の演技時間等のところで4色カラーのライトを設置するということでした。これは舞台上にということとは演技者に対してだけなのか、それとも観覧席側にも分かるようにしているのか、どちらに向けてなのか、両方に向けてなのか、そこを知りたいです。以上4点質問いたします。

○藪田（委員長）

では、まずクイズラリーのことについては？

○本山（オブザーバー）

クイズラリーについて説明をさせていただきます。今現在かなり進んでおりまして、会場内に六つ出題ボードを設けまして、そこで答えを導いていただくというものです。クイズの案につきましては、今聴覚障がい者協会さんのほうに 出題の素案を見ていただいております。内容の詰めを行っているところでございます。配布の方法についてはまだ検討中なんですけども、総合案内で渡すのか、それとも来場者全員にプログラムと一緒に配布していくのか、そこら辺はまだちょっと詰めていないところでございます。景品についてなんですけども、今回あいサポート・マルシェというかたちで、障がい者の団体から店を出していただきます。そこから景品のほうは購入する予定にしております。

○明場（事務局長）

二つ目のご質問で、委員さんの役割、それぞれどんなことをするのかという役割につきましては、このあとのその他のところで説明しようかと思っておりましたけどもこれにつきましては、個別に各委員さんとやり取りをさせていただきたいと考えております。

○本山（オブザーバー）

もう一点。演技用の時間表示の件でございます。これは基本的に司会台の上のところに置く予定にしております。基本的には演技者、審査員、来場者の全員が見れる状況にしていく予定でございます。

○明場（事務局長）

手話のスタッフの対応の部分なんですけども、こちらのほうには今現在聴覚障がい者

協会さんと一緒に、詰めさせていただいて配置の場所を含めて検討をしているところでございます。

○藪田（委員長）

今のお答えでいかがでしたでしょうか。手話対応の意味が少しあれですかねえ。国広さんのご質問の主旨とちょっと違っていたかもしれませんね。ですから、手話対応をここですという意味なのか、あるいは手話がここで必要だという意味で書いてあるのかというようなことでございますよね。少し精査させていただきますので。

○国広（委員）

ありがとうございます。クイズラリーのことですが、抽選会ということは、一等二等とか決めるようなイメージしか取れなかったのですが、一般的にスタンプラリーをやったりしたりすると、たくさんの方がお見えになるので、6カ所のスタンプラリー回って全部埋っていったら、総合受付で渡すとイメージしてました。抽選会ということになるとイメージできないので、これは後で資料等によりご提示いただければ、たぶん納得できると思いますので、よろしく願いいたします。それと先程、大杉委員が舞台袖の裏側での通訳配置を整備するようご意見がありました。その手話通訳に関してですが、今、手話スタッフを全通研と県サ連とで事務局とご相談させていただいております。ただ、その前に共催の鳥取県聴覚障害者協会が、協会職員で手話通訳のできる人何人ぐらい確保して、それ以外に登録の通訳者が何人いるという案がないと、手話スタッフはどういう技術レベルを持っていけばいいのかというのはちょっと分からないんですね。早急に、協会が通訳配置を何名置いて、その中で登録通訳者をどうしても使わないといけなくなると、当然その通訳の人たちは、中にはサークルであるとか、全通研に所属している人がいます。そういう人たちになかなか頼めない状況が起きてきます。それで、早急に協会のほうに人員を決めていただければ、私たちも募集をかけるのにとってもスムーズにいくと思います。これから日にちがながい中でやっていくとなると、大変厳しいという状況が出てきておりますので、その辺のところでは協会側と県側とがよろしく願いしたいと、意見等も含めてでございます。

○明場（事務局長）

ありがとうございます。最初のクイズラリーにつきましてはまた資料等で詳細につきましては提示させていただきたいと思っております。それから、聴覚障害者協会のほうへの人員を何人確保しているかが分からないというような辺り、登録の手話通訳者の数だとか、この辺につきましては早急にご協力を得まして、確認してお知らせしたいというふうに思っております。

○依藤（委員）

参考の資料2のところ、高校生ボランティアの活用というのが上がっておりまして、私も高校学校長協会の会長で、高校生がこういう大会に関わるのは非常に良いことだと思っておりますけれど、今のところ確保する人数であるとか、ボランティアの仕事内容であるとか、あるいは確保する各校の状況といたしますか、その辺のところは分かりましたら教えていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

○明場（事務局長）

高校生ボランティアにつきましては、人数的には多くはないんですけども、一応6名ということで、内容的には出場されるチームの会場と舞台間のアテンドが主な内容です。現在のところ、中部地区の高校から6名につきましては確保できたという情報をいただいております。

○藪田（委員長）

さきほどの高校生ボランティアについての回答なんですが、出場チームは全部で20チームあると思うんですけども、それに対して高校生6名ということでしょうか。

○明場（事務局長）

ちょっと説明が不足していましたが、アテンドにつきましては、受託業者さんのほうから担当者が付きまして、そのサポートというかたちで、高校生ボランティアにお願いするというかたちでございますので、人数的には十分だという判断をしております。

○藪田（委員長）

高校生ボランティアで、すべてのアテンドをまかなうのではなくて、高校生ボランティアさんはお手伝いに入るようなイメージのボランティアさんとして、参加していただくということでございます。

そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。そういたしますと、種々ご質問をいただきました。議案第1号の実施計画につきまして、大きな内容の変化はなかったように思います。多少表現の仕方ですとか、これはいただいたご意見を踏まえて修正させていただきます。ということで議案第1号につきましてお図りしたいと思います。大きな変更はないということで、議案第1号の実施計画につきましては、原案通り（多少修正を行う）ということで、よろしいでしょうか。

（「異議なしの声」）

○藪田（委員長）

はい、どうもありがとうございます。では、議案第1号につきましては、原案どおり決定させていただきます。また、今後実施計画の詳細につきましては、更にさきほども大杉委員さんからも配置等もございました内容を更に深めさせていただきます。万全の大会運営を行えるよう努めていきたいと思っております。今後、随時委員の皆様にはご相談すると思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（3）その他（1）

○藪田（委員長）

それでは、「その他」の報告に移ります。

まず、「大会への出席及び支援」について、事務局から説明をお願いします。

○明場（事務局長） 説明

大会への出席及び支援ということでございます。各委員様のお手元に依頼分を置いていると思います。そちらのほうで確認いただきたいと思いますが、内容につきましては、出席いただきたいということと、実際に当日の運営にお力添えいただきたいということをお願いしているものでございます。その役割につきましては、さきほども申しあげましたとおり、個別に各委員さんのほうにお願いしたいというふうに考えておりますので、また連絡させていただきたいと考えております。それと一カ所訂正なんですけど、別添の回答表のところの②の交流会（9月25）というところは、24の誤りでございますので、訂正いただければと思います。これは、本日帰りがけにでも出してもらえればけっこうですので、出していただければと思います。

それでは、手話パフォーマンス甲子園の協賛企業であります明石さんという岡山県の企業さんなんですけども、こちらのほうから周知用の動画をいただいております。ちょっとご覧いただきたいと思います。

○事務局

協賛企業の「明石スクールカンパニー」というところからPRキャラクターを使った、従来の我々の取組とは少し趣の異なるPV(プロモーション映像)を作っていただきましたので、少し気分転換を図るという意味も含めて、ぜひご覧いただければと思っております。第3回大会のPRで「ぜひ大会にお越しく下さい」という内容です。

[PR動画を放映]

○事務局

以上です。手話の動きについては、協会のほうにご協力いただいて監修いただいたということです。ありがとうございました。

○藪田（委員長）

はい、ありがとうございました。では、その他の今後の日程とその他についてお願いします。

○明場（事務局長） 説明（資料3）

資料3をご覧ください。今後の日程ということでございます。本日、第2回企画推進会議ということで開催させていただきました。今後につきましては、もう本番当日を迎えるのみというかたちになっております。9月24日には交流会・リハーサル。25日は本番ということになっております。それ以後につきましては、11月中旬ごろに第3回企画推進会議ということで、大会結果の報告であるとか、意見交換を行います。そして、年があらたまりまして29年1月中旬には実行委員会総会ということで、第3回大会総括、それから第4回大会に向けて計画、補正予算という話をさせていただきたいと思っております。29年2月中旬には第4回の企画推進会議ということで、第4回大会の開催要綱なり選考方法なりを議論いただきたいというふうに考えております。以上でございます。

○藪田（委員長）

はい、ありがとうございました。その他の議題が終わったところでございますが、まず、（1）でお願いいたしましたご参加につきましてのご依頼でございます。こちらについてはよろしくお願いたします。2枚目の別添に付いております回答表でございますが、もし今提出できるものであれば、本日いただけたらと思います。

それから、日程につきまして、ただいまの説明で、なにかご質問等、すべてに渡ってでもけっこうですから、ご質問ございますでしょうか。では、ないようでございますので、こうした日程について、今後も進めさせていただきたいと思っております。全体としてあらためましてよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。以上で、議事は終了といたしたいと思っております。ご協力ありがとうございました。では、マイクを事務局に返します。

○司会（障がい福祉課 岡村）

はい、事務局、岡村です。ありがとうございました。では、以上をもちまして平成28年度第2回の手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議を閉会させていただきたいと思っております。みなさま、本日お忙しい中、また、大変な悪天候の中をお越しくささいましてどうもありがとうございました。どうかお気をつけてお帰りください。本日はどうもありがとうございました。